



## 子どもに学ぶ

校長 近藤 千晴

いよいよ学年末になり、皆さんの学校や園では、1年間の成長を振り返り、卒業・進級に向けた学習に力を入れていることと思います。日々向き合っていると、なかなか変化が実感できなかつたりしがちですが、4月からみると、子どもたちの表情や言動が変わっていることが多いのではないのでしょうか？少し引いてみると、思わぬ発見があるものです。それを自分だけでなく、ぜひ周囲の皆さんで共有してみてください。子どもたちの成長は、まさに教師冥利に尽きますね。

さて、子どもを育むということは山登りによく例えられます。大人はとかく、寄り道せず最短コースで、まっすぐ頂上を目指してほしいと考えがちですが、その日の状況によっても心情や体調は変化しますし、周りの環境（人、場所、状況など）によっても言動は左右されます。人生はまさに紆余曲折、山あり谷あり、時にはつまづいたり転んだりの繰り返しです。

対応に悩んでいる渦中にいるとなかなか難しいことですが、原因を深堀するよりも「今からここからできること」に知恵を絞り、地道にやっていくしかないのではないかと思います。子どもも一人の個人として尊重し、そうせざるを得ない心情を「そんな時もあるよね」と受け止めながら、一喜一憂せずゆったりと構えることが大切です。本人も、自分を理解してくれる大人や友達がそばにいただけでも、自己の存在意義を見出し、生きる希望をもてるのではないのでしょうか。結局自分の足で歩いていくしかないのですから、見えない意欲の根っこを育て、嵐の時はそっと支え、いつか花開く成長の芽を見付けること、それこそが我々に最も求められることではないかと最近強く感じています。

それにしても、こんなことを考えるようになったのは、子どもたちの様々な姿に触れ、学ばせてもらったからこそ。子どもは大人の未熟さを映す鏡でもあると自戒しつつ、我々も悩んだり喜んだりしながら、共に成長していきたいものです。

「行動で問題をあらわす人をどう理解し関わるか～教育の中でできることを考える～」

秋田県立医療療育センター発達障害者支援部 部長 荒川 祐介 氏

① 行動上の問題は子どもの SOS

子どもの困難に気付くこと。トラウマの可能性も考えたアセスメントを。「正そう」「なおそう」より「わかって」とすること。

② 私も誰かの環境要因

強要や支配など力による一時的な変容は長期的には不適応に。成功体験の場面を見落とさない。

④ スペシャルな支援よりも日常的な予防

問題になっている行動にフォーカスしすぎない。

③ 合理的配慮と教育的配慮

教育的配慮はやりすぎず、個々に必要な時に必要な支援を。

★教育現場にできることには限りがある。その中でできることは…

- 担任一人で抱え込ませない
- 校内で相談しやすい組織づくり
- 校外へ相談しやすい組織づくり

教師の専門性が発揮され  
認められる組織づくり



「居住地校交流、学校間交流～今年度の取り組みから～」

<居住地校交流> 小学部



☆障害理解授業

双方の児童生徒にとって有意義な交流になるように、交流学習の前に障害理解授業を行っています。

<学校間交流> 中学部



ゲームを通して○相手をよく見て関わること  
○気持ちを合わせること  
○相手の動きに合わせることが学習しました。

講話や動画視聴、話し合い活動を通して、多様性の尊重や心のバリアフリー、相手を思いやり接することの大切さを学習しました。

保育園で一緒だった友達もいたよ

作り方の見本を見せてもらって、友達と一緒に作ったよ。

これを使うといいよ。「Yくん、どうぞ」

優しく教えてくれてうれしいな。

ねらいは白いボールだね！

小1交流 生活科「秋となかよし」

発射台を使って、どんだり飛ばしゲーム。

中2交流 総合的な学習の時間～ボッチャ体験

今年度も居住地校交流や学校間交流を実施させていただき、ありがとうございました。次年度も子どもたちの充実した交流及び共同学習を行うことができるよう、御理解・御協力よろしくお祈いします。

先生方のお悩みや疑問にお答えします。ご連絡、お待ちしております。

秋田県立ゆり支援学校 教育専門監:太田清子 地域支援部主任:佐々木弘美

TEL: 0184-27-2631 E-mail: yuri-s@akita-pref.ed.jp

